

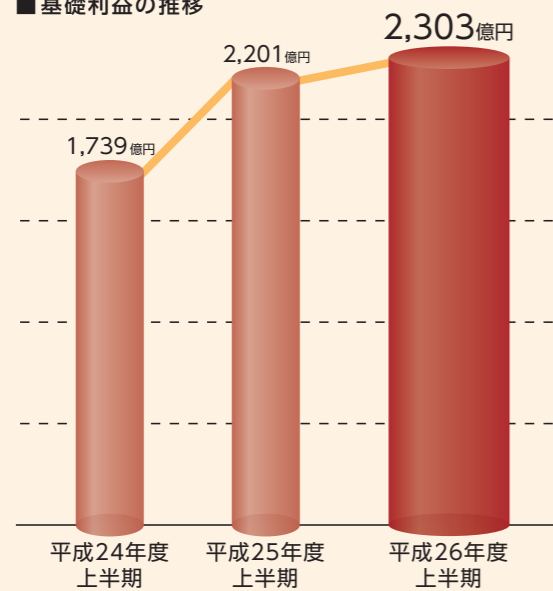
順ざやを維持し、  
引き続き高い収益力を確保しています。

## 1 基礎利益

# 2,303億円

おかげさまで、前年同期比2年連続の増益となりました。

■基礎利益の推移



基礎利益とは、保険料等収入や保険金・事業費支払等の保険関係の収支と、利息及び配当金等収入を中心とした運用関係の収支からなる、生命保険会社の基礎的な期間損益の状況を表す指標です。平成26年度上半期の基礎利益は、2,303億円(前年同期比4.6%増)となりました。

\*基礎利益に、有価証券等の売却損益・評価損益や、保険財務健全化のための臨時的な費用、税金などを加減した最終的な剰余を、事業年度末決算において定款に従い配当としてご契約者に還元しています。

基礎利益の内訳 (単位:億円)

	平成24年度上半期	平成25年度上半期	平成26年度上半期
基礎利益	1,739	2,201	2,303
費差	221	203	172
除く年金資産の時価変動部分*	233	243	221
危険差	1,492	1,463	1,514
利差	26	534	616

\*退職給付費用における年金資産に係る数理計算上の差異の費用処理額を除いた費差。

\*平成25年度決算より、基礎利益の内訳の算出方法を一部変更しております。

- 費差: 保険料算定時に想定した事業費率に基づく事業費支出予定額と実際の事業費支出額との差額
- 危険差: 保険料算定時に想定した保険事故発生率に基づく保険金・給付金等支払予定額と実際の保険金・給付金等支払額との差額
- 利差: 保険料算定時に想定した利率に基づく予定運用収益と実際の運用収益との差額

## 基金について

基金の総額は7,300億円となりました。

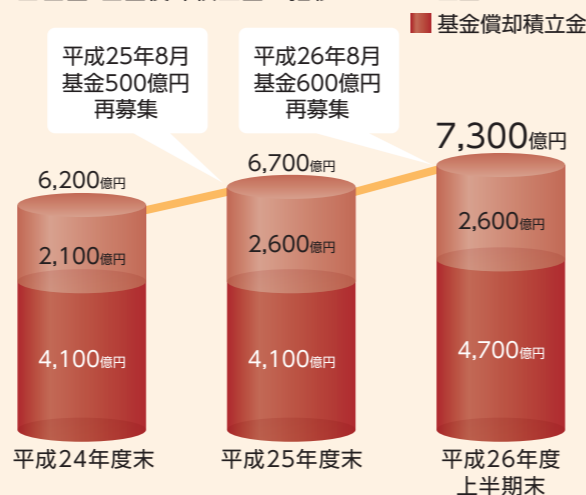
基金とは、株式会社の資本金に相当する性格を持つ資金で、相互会社の財産的基礎となるものです。

当社では、平成26年8月に基金600億円の再募集を行っており、基金の総額(基金と基金償却積立金の合計額)は7,300億円となっています。

今後も、保険会社を取り巻くさまざまなリスクに備え、お客さまの保険契約を確実に履行するために、さらに健全性の高い経営基盤の構築に取り組んでいきます。

基金償却積立金  
相互会社が基金を償却する場合に、保険業法の規定により積立てを義務付けられている積立金です。基金の償却額と同額の積立てが義務付けられています。

■基金・基金償却積立金の推移



平成25年8月  
基金500億円  
再募集

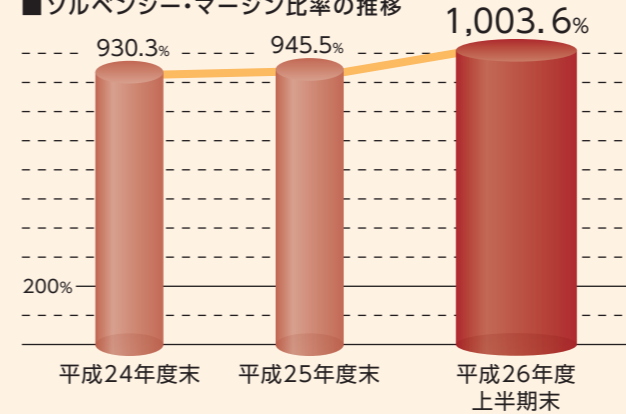
平成26年8月  
基金600億円  
再募集

引き続き、  
高い健全性を維持しています。

## 2 ソルベンシー・マージン比率 1,003.6%

予測を超えたりスクにも対応できる支払余力を確保しています。

■ソルベンシー・マージン比率の推移



ソルベンシー・マージン比率とは、株価の暴落など通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかを判断するための行政監督上の指標の一つです。この数値が200%を下回った場合は、監督当局による業務改善命令等の対象となります。

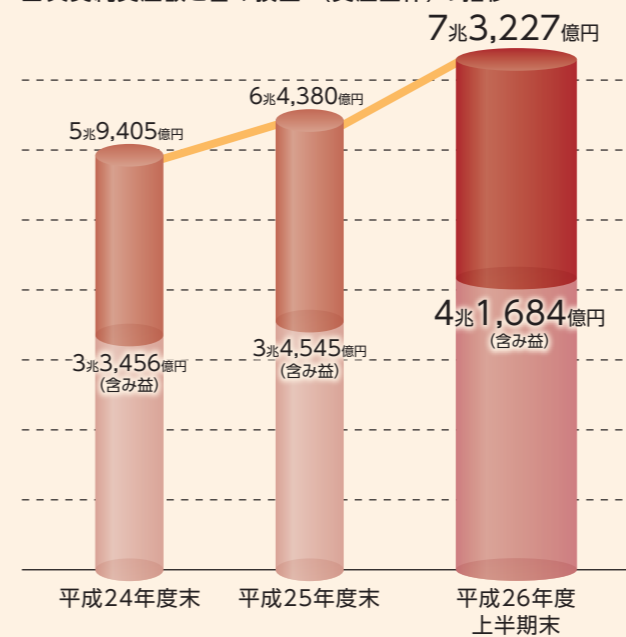
平成26年度上半期末のソルベンシー・マージン比率は1,003.6%(前年度末差58.1ポイント増)となりました。

## 3 実質純資産額

# 7兆3,227億円

健全経営を維持するための純資産額を堅持しています。

■実質純資産額と含み損益※(資産全体)の推移



実質純資産額とは、有価証券や不動産等を時価評価した資産から、ご契約にかかわる各種負債等を差し引いたものであり、保険会社の健全性の状況を示す行政監督上の指標の一つです。

平成26年度上半期末の実質純資産額は7兆3,227億円(前年度末差8,847億円増)で、一般勘定資産に対する比率は21.4%となりました。

国内株式含み損益ゼロ水準  
7,600円程度

平成26年度上半期末における当社が保有する株式の含み損益がゼロとなる水準は、日経平均株価で7,600円程度となりました。

\*仮に当社ポートフォリオが日経平均株価にフル連動とした場合

※含み損益とは、保有資産の時価と帳簿価額との差額です。